

第15回 定例評議員会議事録

財団法人 神奈川県スキー連盟

1. 日 時： 平成18年7月29日（土）13:30～15:00
2. 場 所： 神奈川県社会福祉会館4階第1、2研修室（横浜市神奈川区沢渡4-2）
3. 評議員出席状況： 評議員現在数： 50名
出席評議員数： 28名
委任評議員数： 16名
欠席評議員数： 6名（出欠表添付）
4. 出席理事：（会長）河野 洋平（代理 関野俊樹）
（副会長）野地 澄雄、山田 隆、八尾 勉
（専務理事）片 忠夫
（常務理事）上田 英之、菊地 富士夫、木村 徳善
（理事）徳本 進、川田 光代、吉野 大成、藤田 浩介、金子 理人、
国島 みどり、清水 忠、岡本 洋一、森本 珠水、小池 光
平沢 幸一、斎藤 幸雄、吉岡 去私、平賀 淳夫
欠席理事：（常務理事）三塚 康雄
（理事）百海 廷
5. 出席監事 木村 信吉、内海 雄三
6. 出席顧問・参与（顧問）押川 泰夫、片岡 春夫（顧問弁護士）柳沢 尚武
7. 議長選出 勝島 忠秋評議員（横須賀スキー協会）を指名
8. 議事録署名人選出 佐藤 茂之評議員（横浜スキー協会）、安藤 努評議員（川崎スキー協会）
を選出
9. 書 記 金子 理人理事、川添 徹広報委員を指名
10. 配布資料
① 第15回評議員会資料（事前配布）
② 第15回評議員会資料正誤表（当日配布）
③ 平成17年度 決算報告書（差し替え分）
11. 議 事

1) 報告事項

(1) 一般経過報告

片 忠夫専務理事より、「春の第14回定例評議員会以降の経過としまして、1つは事業計画・予算を決めていただきました。その中で日程が未定のものや、日程変更をしなければならない事業がいくつか発生しているので、この後各本部より報告しますのでご承認をいただきたいと思います。また、SAJの役員改選で山田副会長がSAJの理事に就任しました。SAJ関係の派遣役員につきましては、評議員会資料に掲載しましたのでご参照いただきたいと思います。また、今後ブロック技術員、各専門委員が決まってまいりますので、後に発行されるSAKツールに掲載します。それでは各本部より変更のあったところだけ説明をさせていただきます。」と報告がなされた。

次に事業計画の変更報告として、木村教育本部長より平成18年度教育本部行事の変更についての説明がなされた。

①「湯沢行事Ⅰ」（資料135ページ）の日程変更について

前回の評議員会ではNo. 12「湯沢行事Ⅰ」とNo. 13「五竜行事Ⅱ」が同じ日程で開催することで承認いただいたが、湯沢行事をH19年1月26日から1月28日に変更し、五竜行事Ⅱは、H19年2月2日から4日（変更なし）とした。これはSAJの正指検定会が、

昨年度より1週間早くなり、昨年まで行なっていた五竜行事での養成講習会だけでは単位が足りなくなる可能性が出てきたため、五竜行事Ⅱに養成講習会を追加しました。

②「湯沢行事Ⅱ」（資料136ページ）の追加設定について

No. 26「車山行事Ⅴ」の実技研修後に理論研修の会場が狭く確保できないため、湯沢行事Ⅱ（H19年3月24日～25日）に研修会を追加しました。この他に行事名称の変更も考えており、SAKツールに載せることにしています。

2) 審議事項

(1) 第1号議案 平成17年度事業報告及び決算報告について

① 片 忠夫専務理事より、「平成17年度事業報告ですが、資料の7ページ以降に全体の報告を載せました。経済情勢的にはまだまだ厳しい状況ですが、会員登録については下げ止まり感が確実に出てきております。収支均衡でスタートした予算であります。前回の報告でおおむね良好と報告いたしました。90万円ほどマイナスとなりました。大変申し訳ございませんが訂正をさせていただきます。理由については後ほど説明させていただきます。

登録会員につきましては、加盟団体、所属団体の皆様方の大変な協力のもとに成り立っておりますので今後とも引き続きご努力をお願いし、SAKとしても会員増に努力をしていきたいと考えています。規約規定、基準、要領についても見直しを行いHPに掲載しましたが、別途印刷物として皆様に配布したいと考えています。

方針として提示してきた集客力のない事業（海外ツアー、歩くスキー）を取りやめました。それから財団法人としてマスメディアの活用についてはさまざまなことを行ってきましたが、まだまだ不十分であると思っており、さらに努力を重ねて参ります。

また、ジュニアの育成事業についていろいろな考え方を取り入れてまいりましたが、具体的には、競技本部が県体協と一体となりまして予算をつけていただいてジュニア育成強化のひとつのカリキュラムが出来上がりました。これは、長年の努力のたまものであり、これに力を入れていきたい。また、教育本部では「雪とのふれあい事業」を展開してそれなりに大きな評価を受けております。今後とも底辺の拡大を行いながらジュニアの育成を進めていきたいと考えています。総務を中心にして協賛会員の拡大を行っておりますが、県連の財政の中で大きなウェイトを占めます。これも目標設定をして協賛の拡大に努めてまいります。

競技本部では、冠大会の大きなスポンサーとして「新キャタピラー三菱」が5年間契約で協賛していただけることが具体的にになっており、さらに長期の契約についても話を進めています。冠大会を中心にさらなるスポンサーの拡大に努めて参ります。

スノーボードについては、まだまだ不十分であります。ようやく組織が纏まりつつあります。さらに役員体制を変えましてスノーボードの組織作りに努力をしていきます。

管理部門の経費については、かなり努力し削減を行いました。今後更なる管理費の削減に向けて努力していきます。」との報告がなされた。

続いて、配布資料に基づき、上田 英之総務本部長から、総務本部報告（資料37ページから55ページ）、木村徳善教育本部長から教育本部報告（資料57ページから91ページ）、菊地 富士夫競技本部長から競技本部報告（資料93ページから113ページ）の提案がなされた。

② 平成17年度決算報告については、藤田総務本部長から、資料115ページから127ページについて報告がなされ、決算概要として、単年度収支は予算に対し約90万円のマイナスとなった。また、115ページから119ページの差し替え版が配布され説明がされた。

【訂正箇所】

(ア) 115ページ 決算概要 1、一般会計 の訂正

・収入対予算	誤	▲280万円	→	正	▲286万円
支出	誤	▲136万円	→	正	▲166万円
収支	誤	▲144万円	→	正	▲120万円

・広告料（協賛金）

誤 ▲160万円 → 正 ▲161万円

・管理費

誤 172万円の支出削減 → 正 142万円の支出削減

- (イ) 116ページ 3.6登録料 3) 指導員登録料 の備考欄を訂正
誤 1831 (1787) *200 → 正 1813 (1787) *200
- (ウ) 119ページ 1.8その他事業 8) 神奈川夢国体記念スポーツ振興基金 実績値
誤 1,108,326円 → 正 808,326円 差額 300,000円
- (エ) 上記差額300,000円は、119ページ2.19雑費の実績に加算した。
誤 917,597円 → 正 617,597円
- (オ) 119ページ 2.15支払い保険料の備考欄の記載「大会保険の拡大」（5大会から全行事へ）を削除した。
- ③ 木村 信吉監事からは、平成17年度の会計処理及び事業執行についての監査結果（資料の128ページ、3点の監査所見）の報告がなされた。

(2) 質疑応答

- ① 松浦 哲也評議員（小田原）から、i 湯沢行事追加の予算について、ii 韓国行事の参加者減について、iii 決算報告書の3.事業費3.1.12のジュニア雪とのふれあいの金額根拠についての質問があり、
木村教育本部長より、i 車山V行事で行っていた行事を2つの会場で開催すること、講師も半分に分けて開催するというのが基本的な考えであるとの説明があり、さらにシニア中心の行事ということで平日にレース開催があり、宿泊費も安く参加しやすくシニアの盛り上げを図っていきたいと考えているが、シニアレースを開催するに当たり役員が1～2名増の費用が若干増えるが前年度と比較しても大きな支出増にはならないと考えているとの答弁がなされた。
上田総務本部長から、ii 韓国行事の参加者10名については反省している。韓流ブームに乗って初回は好評であったが、同じスキー場を続けたことなどが参加者減となった。今年度も本行事を開催するが、折角の海外ツアーでありインタースキーも開催されるので、スキー場も変えるなど工夫をしてみたいと考えているとの答弁がされた。さらに、iii ジュニア雪とのふれあいの金額根拠については、北海道行事と同様に旅行会社（シティフェイス）で申込み等含め行っており、県連には参加者1名に対してバックがあるということになっている。行事を進めていく過程で、旅行会社が用意したバス費用が高く、県連でバス会社と直接交渉した結果、当初の代金より安くなり参加者一人当たりのバックとバス代の差額が旅行会社より入金があったため複雑な形となった。
ジュニア行事について、昨年は車山で実施し小田原スキー協会の行事と重なり迷惑をおかけしたので、今年度は時期・会場を含め再検討しているとの答弁がなされた。
- ② 草薙純也評議員（横須賀）から、資料57ページの教育本部報告の2) 選手強化と育成及びスキー技術選手権大会の運営について、技術選手権男子準決勝に4名進出し好成績を残したとあるが、第3者が見た場合に好成績なのかどうか分かりづらいので目標の立て方などで比較して素人の方にも分かりやすくできないかと質問があり、
木村教育本部長より、過去の成績から判断すると4名が準決勝に進んだことは非常によい成績であったと考えているとの答弁がなされ、片忠夫専務より、執行部としても歯がゆく思っている。昨年より教育本部としても改革を行っており、ここ数年来の中では良い成果が得られたと思っており、今後も時間をかけて育成を図っていきたいと考えているとの答弁がなされた。
- ③ 佐伯英雄評議員（横浜）から資料127ページに協賛会員が記載されているが、不況の中、協賛会費を出していただいておりますが、大切にしなければならぬと思うが、資料をみると広告が掲載されていない企業があるが、これは何か理由があるのかとの質問があり、川田理事より、評議員会資料に載っているのが掲載予定全であるとの答弁がなされ、上田英之総務本部長から補足として、基本的には協賛企業全社の広告を掲載することになっていますが、評議員会資料作成の日程や締切りの関係で間に合わなかったもの、対

応が遅れたものがありました。これらは全て協賛企業の了解を得ており、9月のSAKツールにはすべて掲載しますとの答弁がなされた。

以上の提案について、議長より第1号議案について、承認を得たい旨諮ったところ満場一致で承認された。

- 3) その他
執行部、評議員ともなし。

以上を以って、本日の議事を終了し、議長解任後、副会長より閉会を宣した。

この議事録が正確であることを証明するため、議事録署名人、下記に署名する。

平成18年8月21日

議 長

印

議事録署名人

印

議事録署名人

印